第５章　防府市の関連文化財群

１．関連文化財群の考え方

防府市域には地域独自の環境を背景に持つ文化的特性があり、歴史として語られてきた出来事や事象も、その時点・地点を取り巻く環境を要因としていることが明らかになりつつあります。地域の歴史文化を象徴する文化財は、連環する諸環境の一端を具体的に表わした存在とも言えます。これまで文化財は単体で位置づけ、価値づけがなされ、保存・管理・活用の取り扱いも個別に行うことが一般的でした。関連文化財群は、文化財をその周辺環境も含め、総合的に保存・活用していくことを目的とした文化財の捉え方で、「文化財を歴史的・地域的関連性などに基づいて、相互に関連性のある一定のまとまりとして捉えたもの」（『「歴史文化基本構想」策定技術指針』文化庁文化財部 平成24年２月）です。

本構想では文化財の魅力や価値をわかりやすく総合的に保存・活用していくための方策として関連文化財群を設定します。‘群’はテーマ別にまとめた文化財の集合体です。例えば同類型の文化財を集合させた企画であれば、‘群’という集合体の中で比較されることにより、相互の類似点や相違点が明らかとなり、個々の文化財の特徴や魅力がより理解できることが期待されます。さらに類似・相違として気づいた部分に文化財を取り巻く時代や空間といった周辺環境の様々な影響や背景があることを認識できる効果もねらいます。

防府市における文化財を保存・活用するネットワークづくりの端緒となる企画として、関連文化財群設定の方針と対象となる文化財の基準を次のとおり定めます。

- 「防府市の歴史文化の特性」で捉えた内容を踏まえた文化財相互に関連性を持ったテーマ設定がなされ、防府の地域性を表わすストーリーが展開すること
- 主な構成要素に指定等文化財を含めるものとし、未指定の文化財は個々の文化財の現況や価値が把握されていること
- 所有者や地域住民とのつながりがあり、将来の保存・活用を図っていくものであること

関連文化財群としてまとめる企画には、吸引力のある文化財が媒体となり、これまでの見知らぬ他者を仲間として結び、融合させる効果をもたらすことが期待できます。媒体となる文化財によって関連する地域間や文化財所有者同士等で人やアイデアの交流が促され、対象となる文化財自体の理解が深まっていくことが見込まれることが何よりの大きな魅力です。こうした結びつきや融合という「つながり」は防府市内に限定する必要はなく、日本文化という枠組みの中で位置づけされる内容であれば、大きく全国的な規模で展開できる可能性があります。

関連文化財群の活用のあり方のひとつに、殆どが文化財で占められる防府市の観光資源を、本章で扱うようにテーマに沿った歴史文化のストーリーの中に組み込むことがあります。市民そして来訪者に防府の文化財をより良く知ってもらい楽しめる観光企画として研き、ホスト・ゲストの双方に文化財を通して防府の魅力を語れる仲間が増えていく展開となるように取り組むことが活用に向けての目標となります。

２．関連文化財群の設定

本構想で設定する関連文化財群のテーマは、前章の「防府市の歴史文化の特性〈まとめ〉」で整理した３項目を大テーマとして据え、それぞれの大テーマに切り口や捉え方の異なる２つの中テーマを設定しました。そして全部で６項目ある中テーマに、最も基礎的な項目となる小テーマを付設します。今後の事業の進展により各項目が増減することを想定しておきます。

現段階で関連文化財群は以下のとおり、全体として大テーマが３、中テーマが６、小テーマが 16 項目の構成で設定します。

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

【山・川・大地】　キーワード：技術　素材　景観

Ａ　風土を反映した技術・産業

・砂が技術の基盤　受け継がれる熱く燃える産業

・豊富な水が育んできた生産技術

Ｂ　瀬戸内の景勝地で育まれた文化

・理想郷に見立てた古都

・風土を彩る伝統の祭事あふれるまち

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府 ―瀬戸と灘の間に活きた海の技術―

【　海　】　　キーワード：潮流　航海　港　安全

Ｃ　時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地

・古代国家「日本」の黎明期を解明する鍵となる文化財

・中世への幕開けの舞台となった船所　源平争いと重源上人の足跡

・「日本」の近代化を志した幕末の蠢きを知る文化財

Ｄ　難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識

・到達目標は佐波・防府　瀬戸内海路からの眺望

・船を港に導いた文化財

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

【　人　】　　キーワード：来訪者　定住者　在来者

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

・古代国家の地方拠点「周防国府」の実像に迫る文化財

・大内氏の存亡を見つめた防府の文化財

・毛利家の顕著な遺産群

・華開いた数々の伽藍　防府は秀麗仏の宝庫

・人々の願いの履歴を表わして鎮座する神々

Ｆ　交通都市に息づく伝統文化

・都市と村落の景観

・誇れる学びの系譜

現在の基礎自治体の規模としてさほど広くない防府市域ですが、その範囲に特色ある山・川・平野（大地）と海が織り成す多彩な環境を擁していることは、故郷の歴史文化を捉えていく際には着目すべき要件となります。関連文化財群で設定した３つの大テーマのうち２つは特色ある自然環境をキーワードにストーリー展開するものです。

「Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化」では、伝統産業や技術が構成要素となります。その根源をたどると、自然環境の恩恵について振り返ることができる内容となっています。

「Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府 ―瀬戸と灘の間に活きた海の技術―」では、古代国府の「船所」と近世萩藩の「御舟倉」が港の遺構として国史跡となっていることからわかるように、防府付近の海域がいつの時代も着目されてきたことに焦点をあてます。

「Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市」では、Ⅰ と Ⅱ で扱った自然環境を基盤にして、今日に至るまで都市機能が維持されてきた要因が交通であることに着目し、都市形成に関わった多くの人々と防府らしさを表わす文化的な諸相に焦点をあてます。

関連文化財群の構成全体を通して、防府市が「時代を超えて人々の心を惹きつけ、魅了してきた都市文化の継承地」であることを表現します。

図 112　防府市の歴史文化の特性

３．関連文化財群の概要

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

産業は大量に使用する原材料が産出する場所で育ち生産拠点を形成します。防府地域で歴史的に重要視され利用され続けてきた素材は「砂・水・木」です。「Ａ 風土を反映した技術・産業」では良質な原材料を自然から享受して他地域を卓越する産業技術に育った、焼物・鋳造・塩づくりに焦点をあてます。また質量ともに豊富な水源を活かした農業・醸造業・近代工業の発展に関わる文化財も本テーマの構成文化財となります。

日常の暮らしにおいては、防府市に広がる自然の調和が織りなす光景が古くから讃えられてきた瀬戸内海の美しさの中に含まれていることを忘れてしまいがちです。「Ｂ 瀬戸内の景勝地で育まれた文化」では、美しい景観を自然の恵みとし、その環境下にあるからこそ所産した庭園・絵画などの造形表現をまとめました。また、五穀豊穣への祈りや感謝を表わす伝統の祭事も美しい光景を背景に繰りひろげられてきた地域文化を代表するものです。先人たちが馳せた自然への畏怖・感謝の

Ａ　風土を反映した技術・産業　　分布図

- 砂が技術の基盤　受け継がれる熱く燃える産業 …… ●
- 豊富な水が育んできた生産技術 …… ■

Ｂ　瀬戸内の景勝地で育まれた文化

- 理想郷に見立てた古都 …… ●
- 風土を彩る伝統の祭事あふれるまち …… ■

【山・川・大地】　キーワード：技術　素材　景観

念を想起し、私たち市民が恵まれた環境に身を置いて暮らしていることを実感できる文化財のまとまりとなっています。

各ストーリーを構成する文化財の分布図

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

Ａ　風土を反映した技術・産業

◆◆　砂が技術の基盤　受け継がれる熱く燃える産業　◆◆

防府古来の地名「佐波」は「細かな白砂」を表わすとされていて、名称どおり市民が暮らす生活空間の殆どは幾万年も積み重なった砂の堆積層を大地としています。かつて地域経済を活性させた伝統産業は大地の「真砂」が主となる組成分であることを有効に利用して技術を発展させてきました。木炭に加工するなど、燃料として利用しやすい樹木が沿海の温暖な気候に生育する環境にあることも、古代から焼物・鋳物・塩づくりといった高温で熱する産業が定着した要素となります。こうした産業技術が脈々と受け継がれていることも防府の魅力です。

＊主な構成要素＊
伝統産業に関連する文化財

【主な文化財】		［写真］
・末田の窯業生産工房及び登窯	－市有形民－	
・防府の焼物製品	［ 未指定 ］	1
・岩淵観音寺の梵鐘　等	－ 市有形 －	2
・鋳物師の伝統技術	［ 未指定 ］	3
・製塩用具	－国重有民－	
・民謡　浜子うた	－市無形民－	
・三田尻塩田旧越中屋釜屋煙突	－登録有形（建造物）－	

1（西浦焼）

2

かつての塩田作業風景

3（アボンコーポレーション）

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

Ａ　風土を反映した技術・産業

◆◆　豊富な水が育んできた生産技術　◆◆

古くから治水対策に悩まされてきた佐波川ですが、長い歴史でみると、農耕に関わる土地・水・養分を現在に至るまで絶えず供給してきた母なる川です。また堆積層に浸透した豊かで良質な地下水は生活用水・工業用水として利用されおり、市民は日常生活において自然の恵みを享受しているのです。また、良質な水は酒・味噌・醤油など醸造の技術を育んできました。水と地元の素材を使って仕込む、伝統ある醸造の産業がふるさとの味を守り伝えています。佐波川の水を使って歴史的に継承されてきた産業を関連付けして防府の地域らしさを謳います。

＊主な構成要素＊
伝統産業に関連する文化財

【主な文化財】

		［写真］
・円筒分水工	［ 未指定 ］	
・継承された用排水路	［ 未指定 ］	1
・条里区画の水田	［ 未指定 ］	
・開作地の水田	［ 未指定 ］	
・醸造の伝統技術	［ 未指定 ］	2
・近代工場遺構	［近代化遺産］	
・郷土料理	［ 未指定 ］	

1

2（桑田醤油）

2（竹内酒造場）

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

Ｂ　瀬戸内の景勝地で育まれた文化

◆◆　理想郷に見立てた古都　◆◆

防府の風景は昔から、瀬戸内海の美しさを象徴する多島海を背景に、輝く白砂に広がる松原が白砂青松の光景そのものとして愛でられてきました。近くには秀峰がそびえて、ふもとに寺社が建ちならぶ様子は「山水楼観」で描かれた風景そのものです。理想郷に見立てることができる瀬戸内の景勝地を舞台にたくさんの芸術文化の創作活動がなされてきました。

＊主な構成要素＊
芸術文化に関連する文化財

【主な文化財】		［写真］			［写真］
・毛利氏庭園	－ 国名勝 －	1	・天満宮社頭図	［ 未指定 ］	4
・月の桂の庭	［ 未指定 ］	2	・防州秀景図	［ 未指定 ］	5
・紙本墨画淡彩　防府真景図	－市有形（絵画）－	3			

1

1

2

阿弥陀寺蔵　3

防府天満宮蔵　4

5

Ⅰ．自然の恵みを享受して佐波の大地に築かれた文化

Ｂ　瀬戸内の景勝地で育まれた文化

◆◆　風土を彩る伝統の祭事あふれるまち　◆◆

歴史のまち防府には人々が地域の誇りをもって引き継いでいる伝統文化が多くあります。自然の恵みへの祈りや感謝を表わすための年中行事として催行される各地の祭事は地域性と歴史的脈絡が際立つ特色ある文化といえます。古式の神事を伝え厳かな雰囲気でおこなわれるもの、参加者全体で集団的な高揚を誘うもの、晴れやかなリズムを奏でるもの等があり、多彩な祭りを楽しめます。

＊主な構成要素＊
伝統文化に関連する文化財
年中行事・民俗芸能に関連する文化財

【主な文化財】

		［写真］
・玉祖神社の占手相撲	－国記録無形民俗－	1
・笑い講（神事）	－市無形民－	2
・宇佐八幡宮の腰輪踊	－市無形民－	3
・大道の大歳講	［ 未指定 ］	
・春日神社の庭神事	［ 未指定 ］	4
・春日神社の鬼祭り	［ 未指定 ］	5
・防府天満宮の御田植祭	［ 未指定 ］	6
・防府天満宮の輪くぐり（藤葛の輪）	［ 未指定 ］	7
・防府天満宮の花神子社参行列	［ 未指定 ］	8
・防府天満宮の御神幸祭	［ 未指定 ］	9

1（釣垂神事）

1（占手神事）

2

3

4

5

6

7

8

9

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

防府付近の海域は、『日本書紀』の記載にある「沙麼浦」から始まって、日本史で語られる規模の歴史舞台としてもしばしば登場します。その中に、奈良時代の遣新羅使船、そして室町時代では足利義満の九州下向の航海で強風の影響を受けて航行不能となった事態があります。主な推進法が手漕ぎに限られていた時代に、防府沖と対岸の九州を結んで周防灘を航行する船旅は気象と海上の条件で難渋する厳しいものであったようです。また、防府から東は多島海域にあたり、速い潮流に合わせ座礁の危険を回避しながらの操船となります。防府付近の海域では、双方の海域を良く知る地元の水先案内人が航海の安全を担っていたことが想定されます。

「Ｃ 時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地」では、各時代に防府の港を拠点に活躍した人々が加わり成し遂げられた歴史的な大きな転換点に関わる文化財に焦点をあてます。文化財の所在地周辺の環境も念頭に入れて探索することで海との関わりを知ることができます。

Ｃ　時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地　　分布図

- 古代国家「日本」の黎明期を解明する鍵となる文化財 …… ●
- 中世への幕開けの舞台となった船所　源平争いと重源上人の足跡… ■
- 「日本」の近代化を志した幕末の蠢きを知る文化財 …… ◆

Ｄ　難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識

- 到達目標は佐波・防府　瀬戸内海路からの眺望 …… ●
- 船を港に導いた文化財 …… ■

【　海　】　キーワード：潮流　航海　港　安全

「D 難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識」では、海原の中で自船の位置と針路を認識するという航海技術の基本を有視界航法によって防府付近の海域で実践した場合、目標物となる対象が文化財と大いに関わることを知ることができます。瀬戸内海の船上からの眺望を歴史的景観としてまとめたユニークな関連文化財群です。

各ストーリーを構成する文化財の分布図

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

Ｃ　時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地

◆◆　古代国家「日本」の黎明期を解明する鍵となる文化財　◆◆

それまで古墳を築かなかった防府地域に、６世紀に至る時点で突如として古墳が築かれはじめ、古墳築造が終焉する７世紀の中頃まで大型で格別な古墳が連続して築かれることは、大きな政治的な背景がありそうです。繁華街にあってお馴染みの全長 58 mの前方後円墳である車塚古墳、巨石を使った横穴式石室に兵庫県から運ばれた石棺が安置された大日古墳が代表です。朝鮮半島情勢をめぐって対立した北九州と畿内ですが、勝利した畿内政権が九州を治める際に瀬戸内航路上の要港として足がかりの地としたのが防府地域でした。地域社会を超越した古墳が築かれた背景にはこうした政治的な動静があり、北部九州の背後にある本州側の兵站地の役割を果たしたのです。その後の緊迫した東アジアの国際情勢とも無関係でなく、７世紀後半の周防国府跡や下右田遺跡の遺構群と連続してつながります。防府の地も密接に絡んだ国内外の幾多の相克を経て、この時代に古代国家「日本」が誕生しました。

＊主な構成要素＊
古墳文化に関連する文化財

【主な文化財】

		［写真］
・大日古墳	－ 国史跡 －	1
・車塚古墳	－ 市史跡 －	2
・鋳物師大師塚	－ 市史跡 －	3
・岩畠古墳	－ 市史跡 －	
・周防国衙跡	－ 国史跡 －	

2

3

1

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

Ｃ　時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地

◆◆　中世への幕開けの舞台となった船所　源平争いと重源上人の足跡　◆◆

史跡周防国衙跡の船所・浜ノ宮地区で発掘された 12 世紀の井戸枠材は船の舷側材を再利用したものであることが明らかになりました。地区名の「船所」は船や航海に関する海事技術全般を取り扱った国府の部署で、防府の海域を知り尽くした当時の海上交通に欠かせない役割を担っていたとみられます。「吾妻鏡」には、寿永４年（1185 年）、海路で周防大島津まで進んできた源義経のさらなる西向を止めていた平家方の船所五郎正利が義経に兵船数十艘を献じたと記され、平家滅亡へと追いやった壇ノ浦の戦いまでの船所の活躍を彷彿とさせます。その本拠地で出土した船材は海事技術や戦の実勢を物語る資料でもあるのです。

文治２年（1186 年）、源平の争乱で焼けた東大寺を再建する任を担って防府に重源上人が下向します。周防国から搬出した大量の木材が利用され、早くも９年後に再建事業が達成されます。その間に重源上人は最新技術を携えた多くの技術者を伴って往来していて、阿弥陀寺を中心に縁がある各地域に中世初めの確固とした技術で造られた文化財が残されています。

＊主な構成要素＊
中世の海事技術・重源に関わる文化財

【主な文化財】

		［写真］
・周防国衙跡	－ 国史跡 －	1
・鉄宝塔（水晶五輪塔共）	－国宝（工芸品）－	2
・木造　重源坐像	－国重文（彫刻）－	3
・鉄印　東大寺槌印	－国重文（考古資料）－	
・阿弥陀寺境内	［ 未指定 ］	

1（船材を転用した井戸枠）

2

3

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

Ｃ　時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地

◆◆「日本」の近代化を志した幕末の蠢（うごめ）きを知る文化財◆◆

イギリスを中心とした西欧列強諸国の東アジアでの展開を受けて 1860 年代の日本は、体制の転換、技術、思想も含めて国家全体が近代化に向けて動き出した時代です。尊王攘夷の急先鋒だった長州藩でしたが、西洋の文化を受容することも怠らず近代化を推し進め、藩内外を巻き込んだ大変な混乱を乗り越えて明治維新を先導しました。交通の要衝であり藩の海軍局を擁した防府の地は新技術が行使され、行き交う志士たちが集結する拠点であったことから、市内各地に幕末・維新期の記念物が数多く残されて当時の面影を偲ぶことができます。

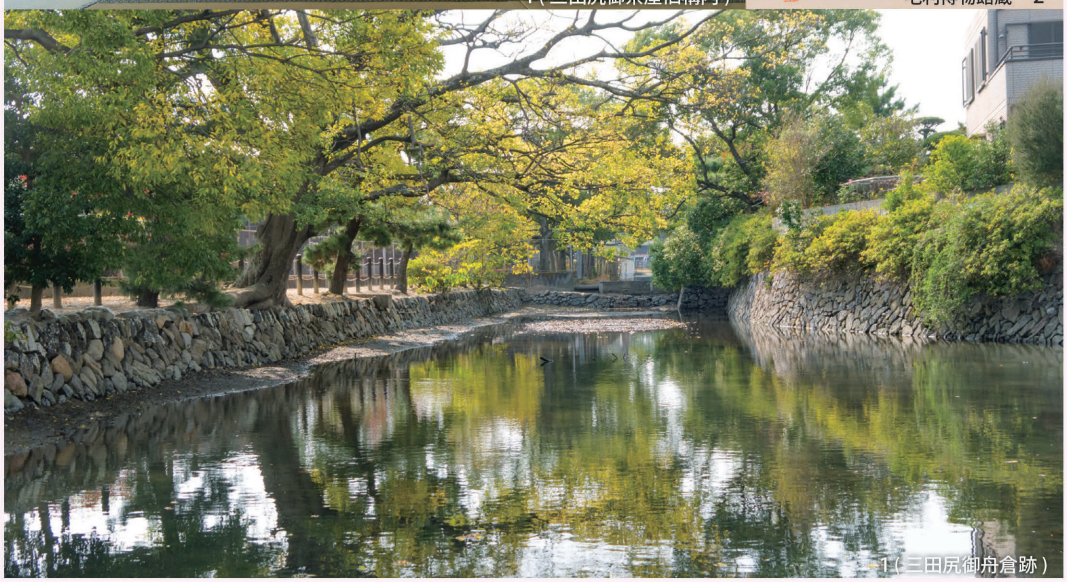
＊主な構成要素＊
幕末維新期に関連する文化財

【主な文化財】

		［写真］
・萩往還	－ 国史跡 －	1
・問屋口海軍局跡	［ 未指定 ］	
・入江家（入本屋宅）跡 伊藤井上両公上陸遺蹟	－ 市史跡 －	
・野村望東尼終焉の宅跡及び墓	－ 県史跡 －	
・招賢閣相見図	［ 未指定 ］	2

1（三田尻御茶屋旧構内）

毛利博物館蔵　2


1（三田尻御舟倉跡）

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

Ｄ　難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識

◆◆　到達目標は佐波・防府　瀬戸内海路からの眺望　◆◆

今も昔も、海原を往く船は必ず海上での自らの位置を把握しています。古くは沿岸の高く目立つ山や大きな島を背後に、見かけの移動が速い手前の低い丘陵や大きく目立つ建物、あるいは小さな島を重ね、組み合わせることで位置を読み取るヤマアテによる経験知が頼りでした。船の進行にしたがい順に目標物を変えながら距離間を推し測り、漕ぎ手の体力も勘案しながらの航海となるので、視界不良、体力を奪うような急変する天候を警戒できる気象の知識も備えていなければなりませんでした。

佐波・防府を目指した船は沖合では周防灘東端の孤島である野島を航海の目標物とし、いざという時には緊急避難先としても重要視されたとみられます。

防府の沿岸に近づくと佐波川河口付近（沙麼浦）を目指す船は周防富士と呼ばれる矢筈ヶ岳を、三田尻湾（勝間浦）を目指す船は桑山をヤマアテの対象として航行したものとみられます。両者ともに沖合から見るときれいな三角形状を成していてひと際目立つ存在です。

さらに沿岸をよく見渡せる距離まで近づくと、富海の八崎岬・小島をはじめに、日本庭園の立石が理想とするような美しい岩肌が見えてきます。青みがある濃い変成岩と赤みがある花崗岩が並ぶ向島の立岩稲荷の海岸や中浦の緑色片岩もあり彩も華やかで、海上からの佐波・防府の眺めは美しさであふれています。

＊主な構成要素＊
瀬戸内海航路の歴史的景観に関連する文化財

【主な文化財】　［写真］
- **野島・八崎岬**　［瀬戸内海国立公園］
- **三田尻沖から旧沙麼浦・勝間浦を望む船上景観**　［未指定］　1
- **周防富士の景観**　［未指定］　2
- **中浦の緑色片岩**　－ 県天然 －
- **立岩稲荷**　［未指定］　3

2

3

1

Ⅱ．海が歴史舞台の瀬戸内防府　― 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 ―

D　難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識

◆◆ 船を港に導いた文化財 ◆◆

港の機能は船の停泊場所、舟の接岸場所、交易場、収蔵・管理施設、宿泊地、船のメンテナス･補給施設等が複合的に組み合わさっています。その中でも人が上陸する地点は重要視され、現在は埋もれた港となって機能が廃れていても、跡地には神社が残され古い時代の港の位置を表わすサインとして読み取ることもできます。一方で防府に築造された大型古墳は埋葬施設ではありますが、船上から沿岸が視準できる距離に近づいた際に利用する寄港や着岸できる地点を示す標識としても機能したとみられています。この２つの情報とヤマアテの考え方を合わせると、防府には航海にまつわる神社と大型古墳と特徴的な山の頂部を直線で結ぶことができる事例がいくつもあります。よくわかる事例として老松神社→車塚古墳→天神山頂部、岸津神社→岩畠古墳→矢筈ヶ岳頂部、国津姫神社→脇古墳→小峠峰部が挙げられます。地形条件からも各神社の海岸側に古い港があったとみてよい環境にあります。特に老松神社には良質な船材として利用されてきたクスノキの大木が生育していることも船・港との関係を示唆しています。

＊主な構成要素＊
瀬戸内海航路の歴史的景観に関連する文化財

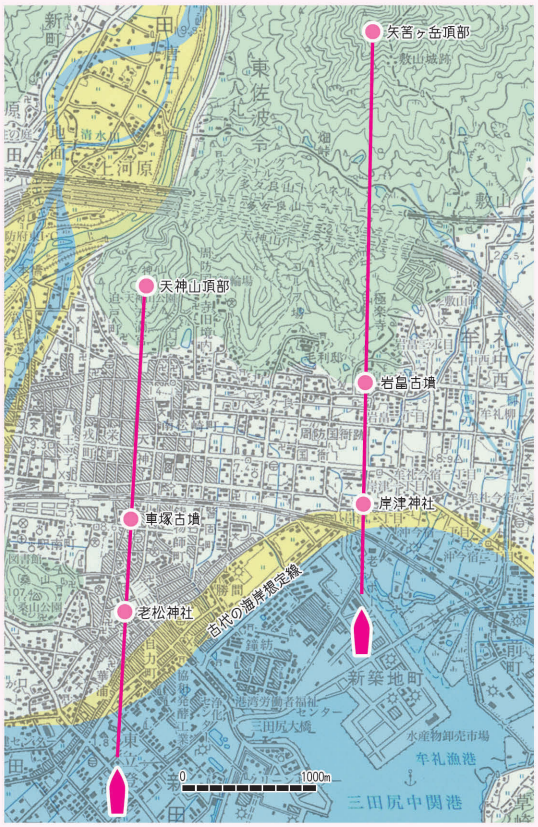
【主な文化財】		［写真］			［写真］
・老松神社のクスノキ	－ 県天然 －	1	・岩畠古墳	－ 市史跡 －	
・老松神社	［ 未指定 ］	2	・国津姫神社	［ 未指定 ］	5
・車塚古墳	－ 市史跡 －	3	・脇古墳	［ 未指定 ］	6
・岸津神社	［ 未指定 ］	4			

2

4

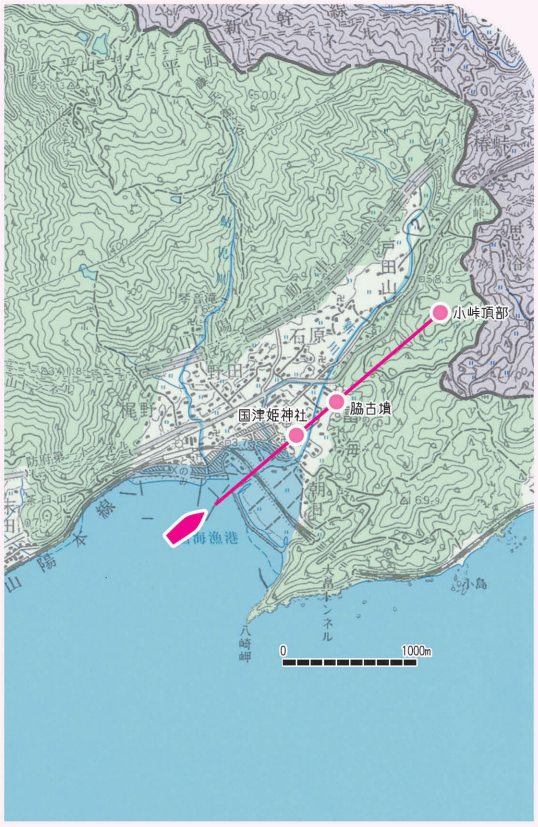
勝間浦の船上景観

天神山 － 車塚古墳 － 老松神社のクスノキ



船を導く文化財の並び（国衙・三田尻）

脇古墳 － 国津姫神社 － 国津姫神社の鳥居



船を導く文化財の並び（富海）

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

防府が交通と深く関与した要因は自然地形や気象作用によって旅路の行程を一時停止せざるをえない環境にあることです。潮流や風向、佐波川の水嵩、峠を越えるタイミング等を勘案すると人々が停留地として利用する要素がそろっています。来訪者に宿、集会と交易の機会が増えることで市、さらに広い平野を擁していて行政拠点と集住機能が得やすいこともあり都市基盤が整備されてきました。このような交通都市は特に人と人との関わり合いの度合いが高く、常に新たな来訪者を迎え入れてきました。古代国府の国司も一定期間滞在する来訪者でしたが赴任期間後に定住者となった氏族も多かったとみられます。大宰府に下向する途中で逗留した菅原道真は現在でも縁深い歴史的な来訪者のひとりです。防府の在来者で絶大な勢力を誇った大内氏も元をたどると有力な技術を携えた朝鮮半島からの渡来者といわれています。毛利家は近代になって「土地健康に適しかつ海陸便利の処」という条件に沿う防府の地を選んで本邸を構えました。交通都市である上に、気候が温暖で生活環境に恵まれた防府は定住先に選ばれる土地柄であったことに気づきます。「E 気候温暖で

E　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」　　分布図

- 古代国家の地方拠点「周防国府」の実像に迫る文化財 …… ●
- 大内氏の存亡を見つめた防府の文化財 …… ■
- 毛利家の顕著な遺産群 …… ◆
- 華開いた数々の伽藍　防府は秀麗仏の宝庫 …… ▲
- 人々の願いの履歴を表わして鎮座する神々 …… ★

F　交通都市に息づく伝統文化

- 都市と村落の景観 …… ●
- 誇れる学びの系譜 …… ■

【　人　】　キーワード：来訪者　定住者　在来者

交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」」では、交通都市をめぐって数多くの人々の物語が防府のまちに息づいていることを文化財のまとまりで表わします。「Ｆ 交通都市に息づく伝統文化」では、宿場町や港町等の停留拠点と都市の活動を支えた近郊村落の景観や他地域との交流も盛んであった学問について焦点をあてます。

各ストーリーを構成する文化財の分布図

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

◆◆　古代国家の地方拠点「周防国府」の実像に迫る文化財　◆◆

「周防国衙跡」は昭和 12 年（1937 年）に国府関連遺跡として全国で初めて国史跡に指定されました。明治初期まで国庁寺（東大寺支院）があり、国衙・朱雀等の地名が伝承することから江戸時代から国府の遺跡として知られた地で、日本の国府研究の先鞭をつけたことで有名です。

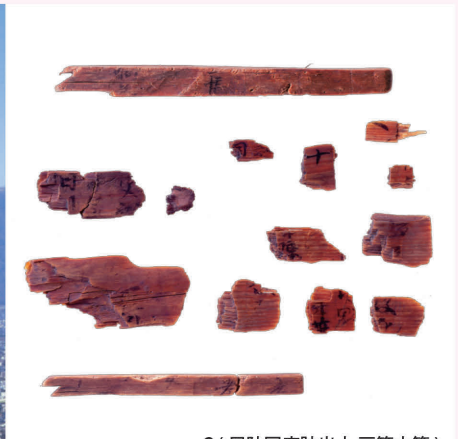
50 年以上にわたって周防国府跡として発掘調査が続けられ、大型建物や倉庫群、金属（銅・鉄）や漆製品のほか、多くの文字資料が出土する等、近年も新たな発見が相継いでいます。これらは周防国を統治した地方の中枢機関が保持した確かな技術があったことを物語ります。また下右田遺跡では佐波郡家と想定される遺構も発見され、古代国家の社会システムである律令政治の実像が明らかになってきています。国府も郡家も当時日本中に張りめぐらされた多岐にわたる交通網の中に位置づけられ、役割をはたしていたとみられます。

＊主な構成要素＊
古代官衙遺跡

【主な文化財】

		［写真］			［写真］
・周防国衙跡	－ 国史跡 －	1	・周防国府跡	［周知遺跡］	2
・周防国分寺旧境内	－ 国史跡 －		・下右田遺跡	［周知遺跡］	3

1


2（周防国府跡出土 戸籍木簡）

3（発掘調査現場）

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

◆◆　大内氏の存亡を見つめた防府の文化財　◆◆

14 世紀以降に西国有数の守護大名となった大内氏の出自は、周防国府の在庁官人であった多々良氏にあります。推古天皇の時代に国衙地域の南岸に比定される多々良浜にたどり着いた琳聖太子（百済国聖明王の王子とされる）を始祖とする伝説を持つことからもわかるように、防府の地と大内氏は古くから深い関わりがあります。周防国府跡からは「達良君猪手」（達良→多々良）という人物名が書かれた８世紀の木簡が出土しており、大内氏の祖先の足跡を確認しています。多々良氏は平安時代末期には在庁官人の筆頭となって権介と称し、多くの人が行き交った国府の地で、後に絶大な勢力を誇った守護大名となる足場を築いたのです。大内氏一族の神話に基づく信仰の拠り所として整備された車塚妙見神社も大内氏と中世における防府のまちづくりとの関わりを知る手がかりになります。大内氏は 16 世紀に滅亡しますが、所持していた至宝は毛利氏が引き継ぎ、今は一族ゆかりの故郷の地（多々良・毛利博物館）で大切に保存されています。

＊主な構成要素＊
大内氏に関連する文化財

【主な文化財】　［写真］

- **周防国府跡出土木簡**　－市有形（歴史資料）－　1
- **大内氏勘合貿易印等関係資料**　－国重文（歴史資料）－　2
- **浅黄糸威風褄取鎧　兜付**　－国重文（工芸品）－　3
- **紙本墨画淡彩　四季山水図**　－国宝（絵画）－
- **漆絵枝菊椀（大内椀）**　－県有形（工芸品）－
- **木造　薬師如来坐像**　－国重文（彫刻）－
- **木造　金剛力士立像**　－市有形（彫刻）－
- **周防国府跡**　［周知遺跡］
- **車塚妙見神社**　［ 未指定 ］

1

毛利博物館蔵　2

防府天満宮蔵　3

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

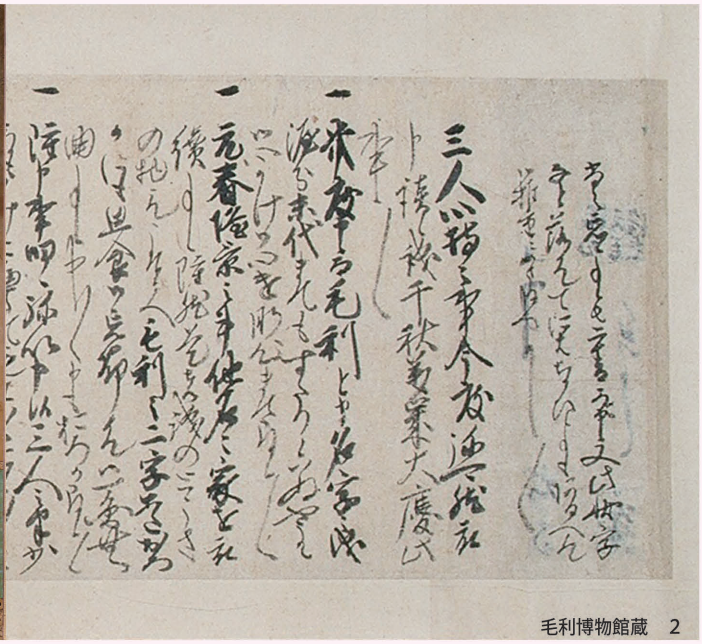
◆◆　毛利家の顕著な遺産群　◆◆

戦国の世を生きぬき、近世は防長両国の大名として領導し、近代には公爵家として新時代を先駆した毛利家の至宝が防府にあります。気候温暖で交通至便なまちとして、防府の地は毛利家に選ばれたのです。およそ２万点にも及ぶ毛利家累代の所蔵家宝を保存・公開する毛利博物館と壮大な華族邸宅をリアルに味わえる旧毛利家本邸・毛利氏庭園で、各時代の文化の粋を目の当たりにし体感できます。また史跡整備がなされている英雲荘では、藩主の宿泊施設であった三田尻御茶屋の復元が進み、近世数寄屋書院が醸す空間のなかに毛利家の趣を感じることができるようになりました。そして防府に広い知行領を有し、地域の建設事業を推進した右田毛利家（藩家中で一門の家格・幕末の所領１万６千石）の存在があります。上右田に御田屋と呼ばれた右田毛利家邸宅があり、近辺には家臣邸宅が残されています。このような防府に伝わる毛利家ゆかり地には、地域性と共鳴するように高格でありながら質実剛健の風情が漂います。

＊主な構成要素＊
毛利氏に関連する文化財

【主な文化財】　［写真］
- 紙本著色　毛利元就像　－国重文（絵画）－　1
- 毛利家文書　－国重文（古文書）－　2
- 毛利氏庭園　－ 国名勝 －　3
- 旧毛利家本邸　－国重文（建造物）－　3
- 萩往還〔三田尻御茶屋旧構内〕－ 国史跡 －　4
- 里村紹巴筆連歌学書（毛利家伝来本）　－県有形（典籍）－
- 幸若流舞之本（毛利吉就所持本）　－県有形（典籍）－
- 毛利元就詠草連歌　－県有形（典籍）－
- 毛利元就関係資料　－県有形（歴史資料）－
- 毛利隆元関係資料　－県有形（歴史資料）－
- 毛利輝元関係資料　－県有形（歴史資料）－
- 毛利秀就関係資料　－県有形（歴史資料）－
- 旧毛利家本邸祖霊社　－市有形（建造物）－
- 紙本着色　毛利元就坐像　－市有形（歴史資料）－
- 右田毛利家邸宅　［ 未指定 ］　5

毛利博物館蔵　1


毛利博物館蔵　2

3

4

秋山家住宅

5

兒山家住宅

桂家住宅 座敷

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

◆◆　華開いた数々の伽藍　防府は秀麗仏の宝庫　◆◆

防府には飛鳥時代から始まる日本の仏教文化の多くの要素が伝えられ、寺院や仏教に関わる文化財により通史的に仏教文化の様相に触れることができる恵まれた環境にあります。全国に数ある国分寺の中で法灯を守り今なお大規模伽藍を誇る稀有な国分寺は古代から、重源上人が興した阿弥陀寺は中世から、位置を変えず長く継承されてきた寺院の代表です。近世になると現在の市域に 80 程度の寺々があったことを考えれば、仏教文化が百花繚乱を呈して輝いた地域といえるでしょう。仏像彫刻・絵画の指定文化財数も多く、未指定も含めると飛鳥様式から木喰仏までの各様式を通観できる程に多様性があります。外来の様式を示すものも多く、他地域からの異なる文化や新しい技術を受容できる体質を備えたまちであったことがみえてきます。

＊主な構成要素＊
寺院に関連する文化財

【主な文化財】		［写真］
・周防国分寺旧境内	－ 国史跡 －	
・国分寺金堂	－国重文（建造物）－	1
・周防国分寺楼門	－県有形（建造物）－	
・周防国分寺文書	－県有形（古文書）－	
・阿弥陀寺の湯屋	－国重民（有形）－	2
・阿弥陀寺文書	－県有形（古文書）－	
・版本　大般若経	－県有形（典籍）－	
・阿弥陀寺仁王門	－市有形（建造物）－	3
・阿弥陀寺境内	［ 未指定 ］	

		［写真］
・敷山城跡	－ 国史跡 －	4
・松尾山天皇院跡	［ 未指定 ］	
・木造　四天王立像 ほか７件	－国重文（彫刻）－	
・木造　阿弥陀如来立像 ほか４件	－県有形（彫刻・絵画）－	
・木造　不動明王立像 ほか 33 件	－市有形（彫刻・絵画・工芸品）－	

国分寺金堂内仏像群

1

3

4

2

中山薬師堂 薬師如来坐像

阿弥陀寺釈迦如来坐像

国分寺金剛力士立像

阿弥陀寺金剛力士立像

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

Ｅ　気候温暖で交通至便　誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」

◆◆　人々の願いの履歴を表わして鎮座する神々　◆◆

防府の神社を総覧すると、神社がある地点と勧請元の地域を結ぶと古来の交通線がみえてくるものが多いことに気づきます。佐波川右岸の神社で出雲地域と関連付けができる神社は、玉祖神社・剣神社・出雲神社・熊野神社が挙げられます。同地には宇佐八幡宮があって九州豊後と関連付けができることから、佐波川が山陰と九州の神々の出会いの場となっており、双方地域の交通線であったことの名残として捉えることができるのです。海岸線に目を向けると、宗像三姫の国津姫神社・浜宮、厳島神社、住吉神社があり、古代以来の海上安全・航海に関わりがある神社が揃っていて瀬戸内海航路の重要な寄港地であったことを示しています。また春日神社は東大寺、防府天満宮は菅原道真と関連があり、大きく展望すると畿内と結びつく歴史性を持っています。防府に古くから鎮座する神社境内の位置は、勧請した人々の願いとともに、歴史文化を反映する地域性を物語っています。

＊主な構成要素＊
神社に関連する文化財
生活信仰に関わる民俗文化財

【主な文化財】　［写真］
・周防国一宮造替神殿宝物等目録
－国重文（古文書）－
・宇佐八幡宮本殿・拝殿　－市有形（建造物）－　1
・紙本著色　松崎天神縁起　箱入
－国重文（絵画）－　2

［写真］
・防府天満宮　本殿・幣殿・拝殿
－国登録有形（建造物）－　3
・防府天満宮の石大鳥居　－県有形（建造物）－
・熊野神社の獅子頭　－市有形（彫刻）－
・神社に関わる文化財

防府天満宮蔵　2

3

玉祖神社

剣神社

熊野神社

１宇佐八幡宮

国津姫神社

住吉神社

厳島神社

春日神社

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300 年持続した歴史的な交通都市

F　交通都市に息づく伝統文化

◆◆　都市と村落の景観　◆◆

【 都市の景観 】

防府に形づくられた「まち」は自然環境により遷移する地形の利用状況に従って都市空間を拡充し変遷を経ながら維持してきました。現況の商店街や住宅街、製造業地域の景観の中に多くの人が行き交った近世以前の宿場町・港町・市町・門前町・政治都市（国府・府中）を内包しています。水路や道路等に近世以前の土木技術がみられ、そこに近代以降の建築様式を表わす歴史的建造物が集合して防府に集積した文化的な都市景観が構成されています。

【 村落の景観 】

都市をあらゆる面で支えてきたのは近郊の村々でした。農･漁･林といった生業の形態によって村落のあり方は様々ですが、自然の生態系に近い環境にあって、使っている技術も周辺環境の違いで地域ごとに特徴がみられます。農村で言えば、山間部築かれた棚田、多くのため池、天井川となった水路があり、耕作地の周りに植えられた柿・栗・桑等の樹木があり、春に小麦が実る光景があります。複雑な屋根をもつ草葺の中門造りや釣屋造りの構造は防府らしい特徴を示す家屋形態です。

＊主な構成要素＊
集落に関連する文化財

【主な文化財】		［写真］
・萩往還〔宮市本陣兄部家〕	－国史跡－	
・山内家住宅主屋ほか	－登録有形（建造物）－	
・清水家住宅主屋	－登録有形（建造物）－	
・白石家住宅主屋ほか	－登録有形（建造物）－	
・都市の街路景観	［未指定］	1
・中門造り・釣屋造りの民家	［未指定］	2
・ハナニワがある居住景観	［未指定］	
・棚田の景観	［未指定］	3
・開作地の水田景観	［未指定］	4
・二毛作をおこなう耕作地の景観	［未指定］	5

【 都市の景観 】

1（天満宮参道）

1（宮市小路）

1（都市の交差点）

【 村落の景観 】

2

3

4

5（麦作）

5（水田）

Ⅲ．往来と交流の十字路　1300年持続した歴史的な交通都市

F　交通都市に息づく伝統文化

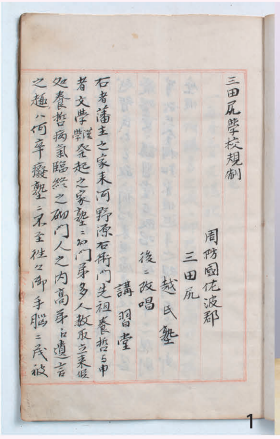
◆◆　誇れる学びの系譜　◆◆

学問の神様の天満宮のお膝元である防府は「教育のまち日本一」を標榜としていますが、古くから学問が盛んで重視する文化を持った地域でした。古くは周防国府跡で出土した「釈奠」（孔子を祭る儀式）と書かれた墨書土器が出土していることから、奈良時代に国学があったことがわかります。江戸時代では郷学としては設置が古い右田の時観園や、地域文化を先導し、数多くの優れた人物を輩出した三田尻の越氏塾をはじめ、多くの学びの場がありました。向学心を持って学び合うことを尊ぶまちの気風が来訪者を呼び、他者との交流がさらなる文化の発展を促してきました。

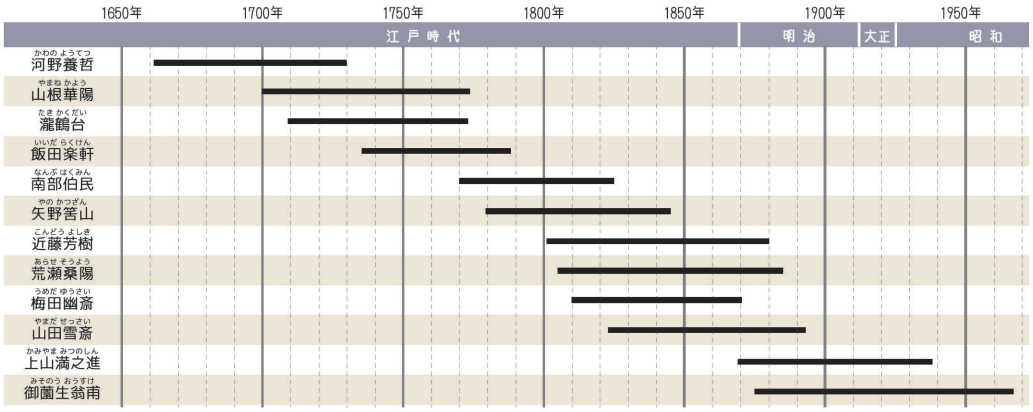
＊主な構成要素＊
学問に関連する文化財

【主な文化財】

		［写真］
・越氏塾資料	－市有形（歴史資料）－	1
・華浦小学校養心館・洗心園	［ 未指定 ］	
・時観園関連資料	［ 未指定 ］	2
・桑陽荒瀬先生碑	［ 未指定 ］	
・上山満之進関連資料	［ 未指定 ］	
・西山塾跡	［ 未指定 ］	
・華浦医学校跡	［ 未指定 ］	
・近代の学校教育関連資料	［ 未指定 ］	



1

2

近世から近代にかけての防府市の学問の系譜